

**生存権裁判を支援する全国連絡会**

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-12-15 KATOビル 3階

メール seizon25@onyx.ocn.ne.jp

電話03-3354-7431 FAX03-3354-7435

**生存権裁判を支援する全国交流会に24都府県から67人参加****社会保障総攻撃への反撃として重要なたたかい**

生存権裁判を支援する全国連絡会は2月22、23の両日、静岡県熱海市で、「生存権裁判を支援する全国交流会」を開催、24都府県から原告8人、弁護団ら合わせて67人が参加しました。今回が初めてとなる交流会は、生存権を保障する運動の広がりや裁判勝利を目的に、原告へのお礼と激励を兼ねて行われ、参加者は大いに交流・親睦を深めました。(全生連 編集部 西野 武さん記)

**<黙とうを捧げ交流会開始>**

小泉政権時代、社会保障の改悪を進める中、憲法25条に逆行する高齢加算廃止に対して、加算復活を求めた「生存権裁判」に全国の高齢者110人が立ち上がり、亡くなった原告は多数で、現在89人が闘っています。交流会の参加者は、運動拡大の重要性を確認し合いました。

開催のあいさつに立った住江憲勇副会長(保団連会長)が「残念ながら安倍内閣は、社会保障を解体する法を次々に成立、こうした流れを止め、全国的な成果をつかむためにこの2日間、大いに学習、交流をしていきましょう」と述べました。

続いて、井上英夫会長(金沢大学名誉教授)が「今回はまず原告の方に楽しんでいただきたい。裁判は形式的には負けていますが、一方で裁判所を追い詰めています。裁判所は、生活保護の引き下げられた意味にまで踏み込みません。踏み込んでしまったら、勝たせなければいけなくなるからです。全国をまわって運動の広がりを実感しています。新たな発展を約束し合う交流会にしたいと思います」と語り、全員で亡くなった原告に黙とうをささげました。

**<裁判支援県内キャラバンを>**

裁判の課題や経過を新潟弁護団の大澤理尋弁護士や福岡弁護団の高木健康弁護士がそれぞれ報告。前田美津恵事務局長が「70歳以上の生活保護利用者に、各1万7000円の高齢加算を復活させたら1年間で1164億円です。これは来年度予算案の軍事費増額分1310億円で賄えます。6、7月に『支援する会』がある各県で『生存権裁判支援県内キャラバン』を実施していきましょう」と問題提起しました。



親睦会では、原告に会からお礼と激励を込めてクオカードと花束が贈呈されました。

2日目も参加者 19 人から「休眠状態だったが再開する」「県内各地生活保護学習会が開かれている」など熱心な発言が続き、高橋信一副会長（全労連副議長）が「生存権裁判は人権、命を守る闘いです。この間 8 県で新たな支援する会が生まれています。2日間学んだことを持ち帰りお互いに奮闘していきましょう」と締めくくりました。

#### ◇原告から一言

東京都・鈴木カズエさん（82）

長いこと新潟裁判の応援をしています。東京の最高裁で老齢加算復活が認められなかったことはとても悔しかったです。年金や保護費を下げられ、さらに消費税を上げられ生活が大変です。この金額で大臣に1か月生活してもらって、認めてもらいたい。

京都府・松島松太郎さん（89）

生存権裁判を初めて9年になります。裁判をやめようかと思うたびに、周りの方たちが温かく支えてくれ、ここまでできました。これだけ締め付けられたら、命を縮めます。もう一度生活保護の在り方を考えて最後まで力を合わせて頑張りましょう。

#### ◇感想文から

- ・1日目を終わった時点で、思いのほか交流できていることを実感。全国の支援する会、協力共同団体の方たちと交流できたことも大きな力になりました。運動の広がりの展望を感じます。こんなに活発に行われていると知りませんでした。（青森）
- ・生活保護をめぐるたたかいが広がり質的发展をしていることを実感できるいい集まりでした。（宮城） / ・裁判が終わったからではなく、これから更に運動をする気持ちでやっていく。これからやれることが沢山あると思った。（東京） / ・多くの参加でよかった。生存権を守る幅広い運動に発展させる上でこの裁判支援の活動の重要性が再確認できた。（神奈川）
- ・原告の方々の熱意に励まされます。会結成に向けて動き出します。（岡山）
- ・裁判支援にとどまらず、生活保護の改悪を許さず、拡充していく運動を進めていきます。（徳島）
- ・全国的な闘い、運動の様子、これまでの到達点と課題の中に位置付けて考えることができ、展望が少し開かれたことを実感。1泊の交流会で、同室者の他県のとりくみを詳しくお聞きし、私個人としても有意義な交流会でした。（熊本）